

群 教 セ	G05 - 03
	平25.251集
	小・音楽

思いや意図をもって歌唱表現する音楽科指導の工夫

— 感じ取った楽曲の気分を伝え合う活動を通して —

特別研修員 小島 一剛

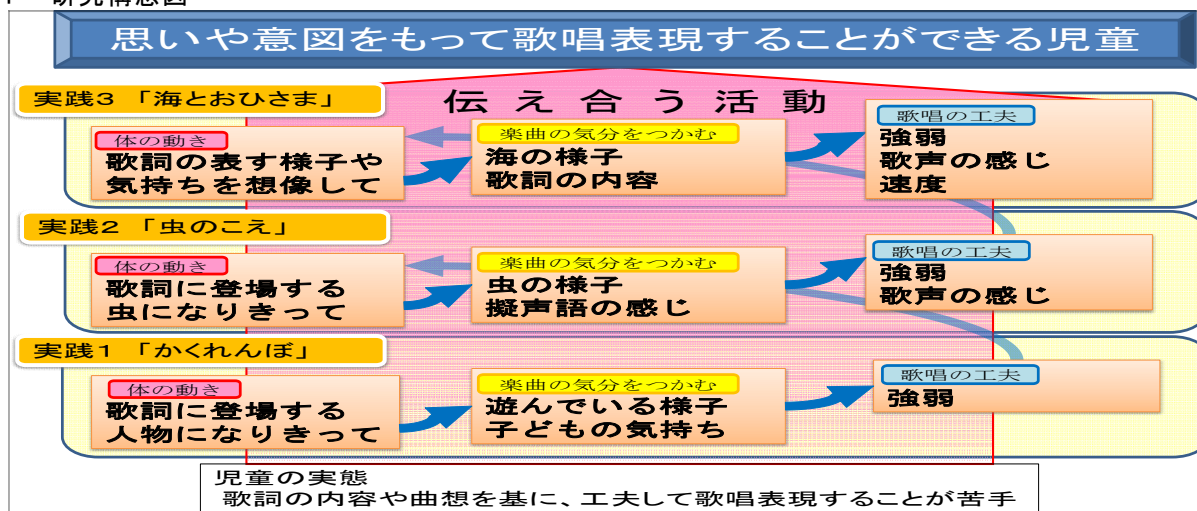
I 主題設定の理由

県の指針である「はばたく群馬の指導プラン」では、音楽科で伸ばしたい資質・能力として「歌詞内容や曲想を基に、表現を工夫して演奏すること」が掲げられている。本校の児童は、歌唱表現の技能はおおむね身に付けている。しかし、歌詞の内容や曲想を基に、表現を工夫することが苦手である。授業でも、強弱や速度について意見を言うことができても、その根拠を歌詞の内容や曲想を踏まえて説明できる児童は少ない。これは、多くの児童が、歌詞の内容や曲想を漠然ととらえていることや、歌詞の内容や曲想と、表現の工夫を分けて考えていることに課題があるためと考える。

そこで、グループ活動や発表の場で、感じ取った曲想（低学年用表記「楽曲の気分」）を根拠に、表現の工夫についての意見を伝え合う活動を位置付けることとした。そして、歌詞の内容や楽曲の気分を具体的にとらえることができるように、楽曲に合わせて体を動かす活動を取り入れることで、児童一人一人が思いや意図をもって歌唱表現することができる考えた。このような考えから、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

実践1では、題材「音のたかさに気をつけてうたおう」（第2学年・1学期）において、感じ取った楽曲の気分を伝え合う活動を位置付けた。かくれんぼをしている様子を体の動きで表現し、この教材の要素である「強弱」について、遊んでいる子どもの気持ちになって工夫し、歌唱発表した。

次に、題材「いろいろな音にしたしもう」（第2学年・2学期）において、実践1の手だてを踏まえ、以下の点に留意して実践を試みた。

実践2における研究上の手だて

- 歌唱発表を通じて、感じ取った楽曲の気分を伝え合う場の設定。
- ・歌詞に登場する虫になりきり、楽曲に合わせて体を動かしながら歌うようにする。
- ・歌唱発表するグループの児童は、自分が担当する役とその声から感じたことを聴くグループに伝えるようにし、聴くグループの児童は、よかったところを歌ったグループの児童に伝え

るようにする。

楽曲に合わせて体を動かすことを通して、楽曲の気分を感じたり、歌詞が表す情景を想像したりして、虫の様子や擬声語の感じから、歌い方の工夫を考えた。また、歌詞に登場する5匹の虫をグループの中で分担し、この教材の要素である「強弱」「歌声の感じ」を中心に相談して歌唱発表することができた。しかし、「小さい声で歌う」などの歌い方を先に決めてしまい、それに合った虫の様子を板書された友達の意見の中から選ぶなど、考える順序が逆になってしまう児童も見られた。

そこで、題材「ようすをおもいうかべよう」（第2学年・2学期）では、次のように手だてを改善した。

実践3における研究上の手だて

- グループで歌い方の工夫を考える際に、感じ取った楽曲の気分を伝え合い、歌詞の表す様子を踏まえた上で工夫したことを歌唱表現するようにする。
- ・ 歌詞の内容に合わせて体の動かし方をグループで考え、発表するようにする。
- ・ 児童一人一人が感じ取った楽曲の気分をワークシートに記入し、グループの中で発表し合い、グループで表現する歌詞の表す様子と歌い方の工夫をまとめるようにする。
- ・ 歌唱発表のあとには、聴いていたグループの児童がよかったところを発表し、表現しなかった歌詞の表す様子が伝わってきたか、歌ったグループの児童に伝えるようにする。

児童一人一人が、歌詞の表す様子を踏まえて歌い方を工夫することがねらいとなる。実践2の考察を踏まえ、最初に、音楽に合わせて体を動かす活動を通して、歌詞の表す様子を具体化し、児童一人一人がワークシートに記入する活動を位置付けた。次に、その様子を歌唱で表現するために、この教材の要素である「強弱」「歌声の感じ」「速度」の三つの視点を示し、歌詞の表す様子を表現するための工夫を考え、グループで意見交換し、グループで表現する歌詞の表す様子、歌唱表現の工夫をまとめた。児童は一人一人が歌詞の表す様子を考えることができた。また、歌詞の表す様子を踏まえて表現の工夫を考え、歌唱表現することができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 楽曲に合わせて体を動かす活動を取り入れたことで、楽曲の気分を感じたり、歌詞が表す様子を具体的に考えたりすることができ、表現したいことを明確にもつことができた。
- ワークシートを活用することで、児童一人一人が歌詞の表す様子を踏まえて歌唱表現の工夫を考えることができ、グループでの練習や発表の場でも、意欲的に表現することができた。
- 「工夫する視点」を示すことで、表現したいことと歌い方の工夫を関連付けて歌唱表現することができた。また、「速さ」や「強弱」などを意識して歌うことで、歌唱技能の幅が広がった。
- 歌唱発表する前に工夫やその理由を発表することで、聴く児童に聴く視点を伝えることができ、その視点に沿って感想を伝えてもらうことができた。発表した児童は、自分が表現しなかった楽曲の気分を歌唱表現することができた実感できた。

2 課題

- 歌詞の内容や楽曲の気分をとらえられても、それにふさわしい表現の工夫に迷う児童もいた。表現したいことを歌声で表現できるようにするためには、速度や強弱などの工夫をすることでどのような効果があるのか、その関係をとらえさせる活動が必要である。

3 提言

- 歌唱表現する学習においては、楽曲に合わせて体を動かす活動を取り入れるなどして、児童一人一人に歌詞が表す情景や様子を具体的に想像させ、グループでの練習や歌唱発表の場でお互いの意見を伝え合う場を設定すると、歌詞の内容や楽曲の気分と表現の工夫を関連付けてとらえ、思いや意図をもって歌唱表現することができる。

IV 実践及び改善の実際

実践2

- 1 題材名 「いろいろな音にしたしもう」(第2学年・2学期)
教材名 「虫のこえ」

2 本題材及び本時について

本題材は、楽器や身の回りにある物から出る、さまざまな音や音色の違いをとらえて、表現の工夫を工夫することができるようにするものである。本時は全9時間計画の第1時にあたり、歌詞に登場するそれぞれの虫の鳴き声の違いを感じて、声の出し方を工夫して歌うことがねらいとなる。本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

導入において、歌詞に登場する虫の名前と鳴き声色分けした歌詞を拡大したもの(図1)を提示した。歌詞に登場する虫を紹介し、実際の虫の鳴き声を録音したものをクイズ形式で聴かせ、虫の鳴き声に対して興味・関心をもたせるとともに、鳴き声と同じではないことを確認した。そこで本時のめあてを「虫のなきごえのちがいをかんじながらうたおう」とした。

そして、実際の虫の鳴き声を聴いていたときに、児童の一人がしていた動作を取り上げ、楽曲に合わせた体の動かし方を児童に投げかけた。

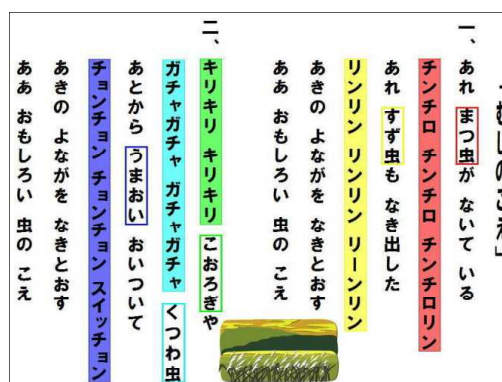


図1 「虫のこえ」歌詞を拡大したもの

楽曲に合わせて体を動かしながら歌う活動の様子

T: 体を動かしながら歌ってみましょう。さっき、虫の鳴き声を聴いていたとき、手を耳に当てて聴いていた人がいました。自然の中で聞こえてくる虫の声は、大きい声ですか、小さい声ですか。

S1: 小さい声!

T: そうだね。小さい声をよく聴くために、手を耳に当てていたんだね。そこで、歌の中で虫の声が出てきたときには、手を耳に当てて歌ってみましょう(図2)。

次に、「あきのよながをなきとおす ああおもしろい虫のこえ」のところに動きを付けてみましょう。おもしろいと思う時、みなさんはどんな動きをしますか。

S2: (両手を大きく上に広げながら) わあー!

S3: にっこり笑う。

S4: (背伸びをしながら) ああー!

T: いろいろな動きが出ましたね。それでは、「ああおもしろい」のところは、にっこりしながら大きくのびをする動きを付けて、みんなで歌ってみましょう。



図2 楽曲に合わせて体を動かす活動の様子

楽曲に合わせて体を動かしたことで、虫の鳴き声を注意して歌うことや、この歌を歌っている人物が、虫の声をおもしろいと感じているということを理解することができた。

このあと、まつ虫の鳴き声に着目させ、まつ虫が鳴いている様子や、擬声語の言葉の感じ、それらを表すためには、どのような歌い方をしたらいいかを発問したところ、以下の意見が出された。

児童から出された意見

・虫の様子は? かくれている 仲間を呼ぶため 楽しくしよう 声をきいてほしい

- ・言葉の感じは？ 楽しい感じ 鈴みたい 「リン」がおもしろい
- ・歌い方は？ 小さい声 大きい声 リズムに乗って 楽器の音のように

また、グループごとに虫の鳴き声の部分を役割分担し、歌唱発表する場面では、次のようなやりとりが見られた。


工夫したことを歌って表現し、その感想を伝え合う活動の様子	
T：それでは、グループごとに発表しましょう。発表の前には、自分が歌う虫の名前と、どのように歌うかを発表してください。	
S1：私はまつ虫です。小さな声で歌います。	
T：どうしてですか。	
S1：かくれているからです。	
S2：わたしはすず虫です。小さな声で歌います。	
T：どうしてですか。	
S2：（黒板に書いてある友達の意見を見ながら）かくれているからです（図3）。	
S3：わたしはこおろぎです。 リズムに乗って歌います。	
T：どうしてですか。	
S3：楽しい感じだからです。	
S4：ぼくはくつわ虫です。リズムに乗って歌います。	
T：どうしてですか。	
S4：（黒板に書いてある友達の意見を見ながら）リズムに乗ると、楽しい感じ。	
S5：ぼくはうまおいです。リズムに乗って歌います。	
T：どうしてですか。	
S5：楽しいリズムだから、楽しく歌います。	
（歌唱発表）	
T：今の発表でよかったところを発表してください。	
S6：小さな声で歌うと言っていたけど、本当に小さな声で歌っていました。	
S7：みんな、リズムが合っていました。	
S8：リズムに乗って歌うって言っていたけど、リズムに乗って歌えていました。	

図3 工夫を発表する様子

グループごとに歌唱発表し、聴いていた児童が聴いた感想を伝えた。歌唱発表する前には、全ての児童が、どのように歌うのか、またその理由を発表することができた。聴く児童は、歌うグループの児童が発表したことがどのように聞こえてきたかを伝えることができた。工夫したとおりの表現ができていたと発表されると、どの児童も満足そうな笑顔を浮かべた。

4 考察

- 歌詞に登場する虫になりきり、楽曲に合わせて体を動かしながら歌うことは、楽曲の気分を具体的にとらえることにつながり、虫の様子や擬声語の感じに合った歌唱表現をすることができた。
- この楽曲の要素としては、「強弱」「歌声の感じ」の二つを想定していたが、児童の意見から、前題材で学習した「リズム」という要素が出された。前題材の教材で扱った音型と似た音型があることに児童が気付くことができたためと考えられる。
- 児童一人一人が考えた歌い方の工夫や発表を聞いた感想を、グループの中や歌唱発表の場で伝え合うことで、歌詞の内容や楽曲の気分と、表現の工夫を関連付けてとらえることができたり、歌詞の表す様子を表現できていたかどうか、児童同士で確認したりすることができた。
- 「小さい声で歌う」などの歌い方を先に決めてしまい、それに合った虫の様子を板書された友達の意見の中から選ぶなど、考える順序が逆になってしまう児童が見られた。歌詞の内容や楽曲の気分を明確にし、それを表現するために歌い方を工夫するといった順序で考えさせたい。

実践3

1 題材名 「ようすをおもいうかべよう」(第2学年・2学期)

教材名 「海とおひさま」

2 本題材及び本時について

本題材は、音楽を想像豊かに聴いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすることができるようにするものである。本時は全7時間計画の第4時にあたり、歌詞の感じに合うように、声の出し方を工夫して歌うことがねらいとなる。実践2の考察から、歌詞の表す様子を踏まえて歌唱表現を工夫するために、本時の研究上の手だてを以下のように実践の中で具体化した。

3 授業の実際

導入において、歌詞を読んだり、範唱に合わせて歌ったりして、感じ取った海の様子をワークシートに記入した。歌詞が3番まである楽曲なので、児童を三つのグループに分け、歌詞の番号ごとに取り組ませた。そこで本時のめあてを「歌詞の感じに合うように、声の出し方を工夫して歌おう」と示し、歌詞の内容に合わせた体の動きを、グループごとに考えて発表した。

歌詞の内容に合わせた体の動かし方を、グループで考える活動の様子

T: 歌詞をよく読んで、歌詞の内容に合わせた体の動かし方を考えましょう。

S1: 「海に朝日がのぼるとき」のところは、手で丸を作ってしゃがんだところから始めよう。

S2: 「海はきらきらうれしくて」のところは、手のひらで光っている感じを出そう。

S3: 「ちゃぷちゃぷ」のところはどうしよう。

T: 「ちゃぷちゃぷ」は、何の音でしょうね。

S1: 波の音。

T: どんな感じの波かな。

S4: 「ちゃぷちゃぷ」は、小さな波の感じ。

S5: 「ざんぶらこ」は、「ちゃぷちゃぷ」より、大きな波の感じだね。

T: それを、どんなふうの体の動きで表したらいいかな。

S1: 「ちゃぷちゃぷ」は小さな動き。「ざんぶらこ」は大きな動き(図4)。



図4 動きを考える活動の様子

各グループが、歌詞の内容に合わせて、体の動きを考え表現することができた。また、体の動きを考える前と後では、ワークシートに書いた海の様子が、具体的になった児童が見られた。

児童がワークシートに書いた海の様子の例 -----

- ・うれしいきもち → 海がきらきらがやいている
- ・かなしいようす → 「海はなんだかさみしくて」のところが、みんなが海に来ないから、かなしいようす
- ・明るいかんじで楽しいかんじ → 明るく楽しいかんじで、はずんでおどってるかんじ

次に、「強弱」と「声の感じ」について、自分が書いた海の様子に合った歌い方の工夫を一人一人が考えてワークシートに記入した。また、ワークシートを持ち寄り、グループとしての歌う工夫をまとめる時には、次のような児童のやりとりが見られた。

ワークシートに記入した児童一人一人が感じ取った楽曲の気分について発表し合い、グループで表現する歌詞の表す様子と歌い方の工夫をまとめる場面

T: まず、グループで海の様子を一つにまとめましょう。

S1: 「朝はたのしいけど、たのしい時間が終わってさみしいようす」というのはいいね。

S2: 「さみしくて」って言葉が、歌詞にもあるからね。

T: 海の上の波はどんな感じかな。

S3: さみしいから、弱い感じ。

S4: それじゃ、「朝はたのしいけど、たのしい時間がおわって、波が弱く小さくなってさみしいようす」はどうか。

T：次に、「強弱」と「声の感じ」、「速度」について、歌い方の工夫を二人組で考えてから、グループで相談しましょう。

S1：二行目は、「さみしくて」ってあるから、弱く歌うのがいいと思う。

S2：さみしいのに「強い」だとおかしいよね。

S3：「ちゃぷちゃぷ ちゃぷちゃぷ ざんぶらこ」のところは、海の様子で「波が弱く小さくなって」ってあるから、「弱い」がいいと思うんだけど。

S4：弱いが続くのは変だよ。体の動きは大きめだったから、「中くらい」がいいんじゃない。

グループで歌い方の工夫を考えるときには、最初に考えた海の様子を根拠として発言したり、歌詞の言葉の様子から、声の感じの工夫を考えたりして発言ができる児童が増えた。

最後に、グループごとに歌唱発表した。歌唱発表する場面では、次のようなやりとりが見られた。

工夫したことを歌って表現し、その感想を伝え合う活動の様子

T：それでは、グループごとに発表しましょう。発表の前には、グループのリーダーが、グループで考えた工夫を発表してください（図5）。

T：海の様子はどんな様子ですか。 S：「楽しく光を浮かばせて波がおどってる」です。

T：速さの工夫は何ですか。 S：普通の速さです。

T：強弱の工夫は何ですか。 S：中くらい・中くらい・中くらい・強いです。

T：声の感じの工夫は何ですか。 S：うれしそうに・やさしく・楽しそうに・元気いっぱいにです。

（歌唱発表）

T：歌う速さの工夫はどうでしたか。

S1：ちょうどよかった。

T：「楽しく光を浮かばせて波がおどってる」に合っていましたか。

S1：合っていました。

T：声の強さの工夫はどうでしたか。

S2：中くらいと強いで、ちゃんと声の大きさが変わった。

T：それは、「楽しく光を浮かばせて波がおどってる」に合っていましたか。

S2：合っていました。

T：声の感じの工夫はどうでしたか。

S3：「るんるんらんらんあそぼうよ」のところ、楽しそうに歌っていました。

T：それは、「楽しく光を浮かばせて波がおどってる」に合っていましたか。

S3：合っていました。



図5 工夫を記入したシート

グループごとに歌唱発表し、聴いていた児童が感想を伝えた。発表したグループが工夫したことが、最初に考えた海の様子を表現することにつながっているものだったかを確認することができた。表現の工夫を考えるとところから発表するまで、最初に感じ取った歌詞の表す様子を踏まえて学習を進めることができた。

4 考察

- 歌唱表現の工夫をグループで話し合った後では、歌詞の内容や楽曲の気分に合った歌声になっていた。歌唱発表する前に工夫やその理由を発表することで、聴く児童に聴く視点を伝えることができ、聴いていた児童が感想を伝える場面では、表現したいことが聴いている児童に伝わったときの喜びを多くの児童が感じる事ができた。
- ワークシートを用い、最初に歌詞の表す様子を書いておくことで、歌い方の工夫を考える活動や、歌唱発表の時に、歌詞の表す様子を踏まえて歌唱表現できた。
- 歌詞の内容や楽曲の気分をとらえられても、それにふさわしい表現の工夫が分からない児童もいた。速度や強弱などの工夫をするとどのような効果があるのか、その関係をとらえさせていくことが課題である。